

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「夢をもち 自分たちの力で 未来を創り出す子ども」～やりぬく子 とともに生きる子～

自らの理想とする夢の実現に向けて、豊かな体験や人とのかかわりを通して学び、問題解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を身に付けていくとともに、よりよい人間関係を築くための心を育み、他者と共生しながら持続可能な社会を創り出していくことと態度を育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

問題発見・解決能力
自分づくりと人間関係形成力
心身ともにたくましく生きる力
グローバル化の中で生きる力

具体化した資質・能力

- 身近な出来事から問題を見出し、よりよく解決していく力
- 自分の特徴やよさに気付く、自分と違う考えのよさを生かしながら協働的に学ぶ力
- 命を大切にし、安全に行動するための判断力、健全な生活習慣を営む実践力
- 様々な変化に対応し、今できることを考え適応していく力

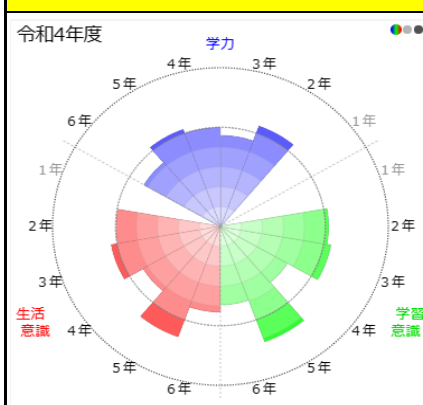
中期取組目標

- ・教職員が一丸となって次のことに取り組み、学校教育目標の具現化を目指す。
- ・子どもが、学ぶ楽しさを実感しながら主体的、対話的で深く学ぶことができるように、教職員の研究・研修を充実する。
- ・カリキュラム・マネジメントを核として、子どもの学力や体力の向上を目指して、組織的・計画的に取り組む。
- ・チームで取り組む人権教育・児童支援体制を充実させ、誰もが安心して学校生活が送れるように努める。
- ・保護者、地域、関係機関との連携を図り、協働的に子どもを育てる風土を築く。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	<ul style="list-style-type: none"> ・国や市の学力状況調査結果の分析を元に、学年ごとに育てたい力と伸ばしたい力を明確にし、それに基づいた指導を行う ・習得した知識や技能を実生活で活用する場面を設定する ・体験や人とのかかわりを重視した、探究的・問題解決的な学習を充実させる。 ・重点研究の算数を中心として、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
担当	カリマネ部

学力向上に関わる本校の状況



各学年の学力・学習意欲の状況について、折本小学校全体として、自分と友達の意見を比べて関連づけたり多面的に捉えたりする力に弱さが見られる。

(2) これまでの学校の取組状況

これまでの特別活動・国語・道徳の研究を通して、子ども達自身が友達同士で学ぶことの意義を実感し、意欲的に学ぶ姿が見られていたが、コロナ禍で学びの方法が一変し、令和3年度での調査結果の学習意欲の低下につながったため、令和4年度はペアやグループ学習をできるだけ取り入れるようにした。

今年度の目標

- ともに学び、自分の考えを広げ深めようとする子どもの育成
- 子どもが主体的に学習活動に取り組むための手立ての追求

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期**
- ペアやグループで話し合ったり協働的に問題を解決したりすることで、自分の考えを多面的に捉えて表現できるように授業を工夫する。
 - 体験的な活動を通して実感を持った理解を促進させる。
 - ＜重点研究(算数)＞
 - 児童が数理的に事象を見ることで問題を見出し、自力解決に取り組もうとする手立てを考える。
 - 数学的な表現で伝え学び合うことで、学級の学びが深まるという意識がもてるような授業を展開する。
 - (個) 実生活における自立をめざし、経験を広げられるように、体験的な学習を計画したり教材を工夫したりする。
 - (低) 数量や図形に親しんだり、友達のことを聞いて、自分ごととして考えられるようにするために、学習の足跡を掲示物で残す等、教材を工夫する。
 - (中) 数量や図形に進んでかかわり、多面的に捉えて、自分の考えを広げられるように、実際に図る活動を取り入れる等、体験的な学習を計画する。
 - (高) 数学的に表現・処理したことを振り返り、よりよいものを求めて考えを深められるように、表現し伝え合う活動を取り入れる。
- 下半期**

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動を核とした、児童が主体となった集団生活をつくる ・ペア学年の設定と異年齢集団の交流と幼保、中学校との連携・個別支援学級と一般学級児童の日常的に交流する ・道徳の時間の授業改善(R3年度 道徳教育推進校)・特別支援教育を核とした人権教育の充実。横浜プログラムの計画的な実施とアセスメントを活用する(R4人権教育推進校)
担当	人権・児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況

・折本小スタンダードを中心に、みんなが同じルールやきまりで取り組むことができ、子どもたち一人ひとりが混乱することなく、いつでも誰でも安心して過ごせるよう努めている。

・しかし、継続的な指導やタイムリーな指導ができず、きまりがなかなか浸透していなかったり、ルーズになってしまっている実情がある。そのため今年度は、年度初めに児童指導の研修を行い、スタンダードの読み込みや指導の共通理解に時間をかけた。日々、学級経営の中で、教師のあいまいさが、児童を不安にさせてしまわないように教科分担任制など、複数の職員が(どの先生も)同じ指導ができるよう掛けている。

・折本小学校いじめ防止基本方針の共通理解のもと、学年、児童支援専任、管理職はもちろん全職員で「報告、連携、相談」を徹底しながら、いじめが起らないように早期発見・未然防止に取り組んでいる。日ごろの観察・アンケート・アセスメント・ノートでの情報共有、ケース会議、教育相談等、児童の些細な変化を見逃さない取り組みを行っている。ノートに記載された事案は、集計しミラタイムで周知している。その情報共有は、同じフロアでの指導やクラブ・委員会等での指導にも生かされている。

・また今年度は人権教育推進校2年目として、早渕中ブロックで連携し実践を積み重ねていく予定である

今年度の目標

チームで取り組む人権教育や児童支援体制を充実させ、誰もが安心して学校生活が送れるように努める。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期**
- チーム対応の強化(いじめの早期認知)
 - 学年主任を中心に学年の児童について情報共有。週末に「児童理解ノート」を提出。管理職、専任確認。拳がった事案を専任が全職員へ周知。定期的にこどもの内面を知る様々なアンケートの実施も行った。教科分担任制を導入して、複数の教員が各学級に関わる体制。KDDIの講師を招いて、ケータイ教室の実施。SNSトラブルの未然防止。
 - 揃えた指導と学びの構造化
 - 誰もが安心して学習に向かえる授業デザイン(横浜プログラムの考え)めあてや学習の流れや手順がはっきり分かるようにする。折本小スタンダードで指導の統一化を図る。特別支援の視点から、教室環境のユニバーサルデザイン化の推進を図る。
 - 横浜プログラムを軸に置いた学校・学級づくり
 - YPアセスメントで子どもたち一人ひとりの実態把握を行い、個人や集団を丁寧に見取り、分析し、学年共有。個人や集団に合わせたプログラムの実践。学校スタートプログラムの実施。
 - 特別支援教育の充実
 - ケース会議の開催し、チームで支援方法を考えた。特別支援教室での継続的な支援。
- 下半期**
- チーム対応の強化(いじめの早期認知)
 - 学年主任を中心に学年の児童について情報共有。週末に「児童理解ノート」を提出。管理職、専任確認。拳がった事案を専任が全職員へ周知。定期的にこどもの内面を知る様々なアンケートの実施。教科分担任制を導入して、複数の教員が各学級に関わる体制。
 - 揃えた指導と学びの構造化
 - 誰もが安心して学習に向かえる授業デザイン(横浜プログラムの考え)めあてや学習の流れや手順がはっきり分かるようにする。折本小スタンダードで指導の統一化を図る。教室環境のユニバーサルデザイン化の推進を図り、毎月、安全点検時にチェックする。
 - 横浜プログラムを軸に置いた学校・学級づくり
 - YPアセスメントで子どもたち一人ひとりの実態把握を行い、個人や集団を丁寧に見取り、分析し、学年共有。個人や集団に合わせたプログラムの実践。
 - 年に2回の校内人権研修(横浜プログラム)の実施。支援検討会を学年で実施。校内研修を受けて、12月の人権週間全学級YPの授業の実施。

健やかな体の育成プラン

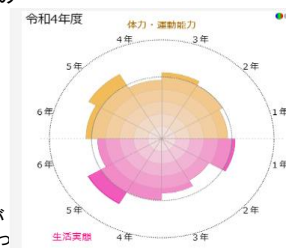
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体となった学校保健委員会の活動を充実する(テーマは姿勢) ・児童が主体となった体力づくり運動(長縄)に取り組む ・自分自身の身は自分で守ることができる(安全教育) ・適切な環境など感染対策を実践する ・保健、体育の授業の充実
担当	健康・安全部

健やかな体に関わる本校の状況

地域に外遊びができる空間は十分あるものの、体を動かす習慣が身に付いているとは言えない。そのため、よく体を動かす児童と、そうでない児童との二極化が顕著に表れている。

1校1実践運動の取組の様子を見ると、楽しみにしながらしっかり取り組んでいる子どもがほとんどであるが、期間が長くなるにつれて飽きてしまう子どもも出てきている。

グラフは、本校児童の体力テストと生活実態調査の結果を、横浜市の平均と比較したものである。体力・運動能力は、どの学年も市の平均よりも大きく差があるわけではないが、体力テストの種目別では握力と立幅跳びの数値が高いが、反復横跳びの数値が比較的低くなっている。生活実態調査では運動時間、睡眠時間の数値が高い一方で、一日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間の長さも目立つ。本校では、結果のよくなかった項目の中でも、比較的に学校内で取り組みやすい「反復横跳び」「ソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間」に注目し、今後改善に取り組んでいきたいと考えている。今年度は、俊敏性、持久力の向上を目指すきっかけづくりとして、運動委員会による体力アップタイムの取組を行う。



今年度の目標

○児童一人ひとりが、体力向上や健康・安全を意識した生活を送れる態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期**
- 1) 学校保健委員会「正しい姿勢をめざそう」を学級で推進する。毎月5日～10日に学級ごとにめあての振り返りを児童作成によるチェック表を用いて実施する。
 - 2) 運動委員会主催の長縄集会
中休み最後の5分間を使って、運動委員会を中心に全校生またはペア学年で長縄を行う。
 - 3) 適切な環境など、感染対策を実施する。
丁寧な手洗いや二方向換気など引き続き継続、推進する。
- 下半期**